

1. 評価結果概要表

評価確定日 平成19年10月12日

【評価実施概要】

事業所番号	2276600406
法人名	有限会社 政経
事業所名	グループホーム 豊田長藤の家
所在地 (電話番号)	磐田市上新屋483-1 0538-34-9000

評価機関名	セリオコーポレーション株式会社
所在地	静岡県静岡市清水区迎山町 4番1号
訪問調査日	平成19年7月14日

【情報提供票より】平成19年 6月 25日)

(1) 組織概要

開設年月日	平成15年 12月 15日		
ユニット数	3 ユニット	利用定員数計	27 人
職員数	16 人	常勤 16 人, 非常勤 3 人, 常勤換算5.7	

(2) 建物概要

建物形態	単独	新築
建物構造	鉄骨 造り	
	3階建て	1階 ~ 3階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	35,000 円	その他の経費(月額)	10,000 円
敷金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり		1,000 円

(4) 利用者の概要(平成19年 6月 25日現在)

利用者人数	26 名	男性 4 名	女性 22 名
要介護1	8 名	要介護2	5 名
要介護3	10 名	要介護4	3 名
要介護5	0 名	要支援2	0 名
年齢	平均 87 歳	最低 58 歳	最高 95 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	松原内科呼吸器科医院、おぐら歯科医院
---------	--------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

3ユニット全居室が開放されて半年が経過、家族からは職員はよく話を聞いてくれて柔軟な対応をしてくれる、と感謝の言葉をいただいている。新しい館長を迎え、ベテラン職員・新メンバーが参加、共に自己評価にとり組み、外部評価を実施する意義を理解してホームの運営に活かしたいと再出発に向けて確認し合った。入居者・家族と共に運営推進会議の協力を得ながら”感謝の気持ちを持った介護”でサービスを提供し、家族・地域の皆さんに愛されるホームを目指している。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	ホーム独自の理念「感謝の気持ちを持った介護」は分かりやすく職員で共有し日常生活にとり組んでいる。館長を中心に今後さらに、理念の実現度を検証・確認するためにミーティング・申し送りなどで常に話し合い、サービス提供に活かしていただきたい。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	館長を中心に各ユニットで自己評価を行いホームの運営に良い影響を受けていると評価、そして外部評価実施へ繋げる意義を理解している。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	第1回開催において昨年度の外部評価結果を報告した。館長は2ヵ月に1回の開催を計画に揚げ、種々思いをふくらましている。次回の開催には会の追加メンバーに消防署・近隣の幼稚園を加え、少しずつでも地域に根ざして着実に進めていただきたい。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族へは会計報告・行事案内などが毎月連絡されている。加えてホーム便りの発行を相互の絆とし、家族との更なる信頼関係を大切にして意見をくみ取り、ホームの運営に反映させていく事を望みたい。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	日常的には散歩での挨拶・洗濯干し・草花の水やりなどでの会話で触れあいをしている。又、地域の行事の参加・手伝いなど入居者と共に参加している。小・中学生とのふれあい活動もある。今後、地域の幼稚園との交流で運動会の参加など計画中である。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	ホーム独自の理念「感謝の気持ちを持った介護」を掲げて取り組んでいる。地域密着には触れていない。	○	地域密着型ホームとして、再出発するにあたり、館長始め職員・ホームに関わる人達がみんなで検討してホーム独自の理念「感謝の気持ちを持った介護」に地域密着型ホームとしての理念が加えられる予定である。地域の中で親しまれるようなものを期待したい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念「感謝の気持ちを持った介護」は壁に掲げられている。新メンバーも共に日頃の実践に活かされるようになってきている。	○	ホーム独自の理念”感謝の気持ちを持った介護”が日常生活支援の場で活かされるよう、館長中心にみんなで常に話し合い共有していただきたい。さらに家族・地域へと繋げていく事を期待したい。
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の一員として行事、文化祭・夏祭りには入居者と共に参加している。又小・中学生とふれあい活動で交流している。さらに地域の幼稚園との交流を始めたいと希望が持ち上がっている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価・外部評価を実施し、館長をはじめ職員は評価の活用に目を向けて取り組むようになってきている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は地域住民を交えて第1回を開催し、議事記録に外部評価の報告が残されている。	○	第2回会議が待たれるところであるが追加メンバーに消防署・幼稚園関係者の参加が望まれる。話し合いの中での意見をホームのサービス向上に活かしていただきたい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の長寿推進課による定期的な会議が開催されていて、館長が毎回出席し相談しながら運営にとり組んでいる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	毎月、会計報告と共に入居者の様子・ホームの予定などを報告している。	○	入居者の日常生活の様子の分かることが家族の安心に繋がり、そこから家族の意見・要望が出されることがある。ホームと家族、相互の関係を結ぶものとして ホーム便りの定期的な発行をお勧めしたい。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情は重要事項の掲示通り窓口を明確にし受け止めている。市の介護相談員の受け入れも実施している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	ベテラン職員・新メンバーが加えられた現在、ホームの職員体制が整ってきている。今後法人内職員移動も含め、ユニット変えは1名を基本としている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内研修制度規定により計画されている。内容により外部研修参加を促している。	○	外部研修など、参加した研修資料を職員みんなで共有できる、OJTも含めてのホーム内の研修体制づくりの検討をお願いしたい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内・町内の同業者、法人内の館長会議などで情報交換をし、サービスに反映させている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前に見学を行って頂く事で、リロケーションダメージを減らす様に努めている。また、職員は声かけを多く行う事で入居者の事を良く知り、少しでも早く馴染みの関係を作る事が出来るよう意識し支援している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は入居者に声をかけ、掃除・洗濯物たたみ・食事準備等出来る範囲で行う様に支援している。畑仕事得意な入居者に、職員が水遣りや草取り等を教えてもらいながら共に農作物の栽培もしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	家族の来所時に聞き出した情報や日々の生活の中で職員が聞き出した希望等を蓄積し共有する事で、本人にとってより快適な環境に近づける様に支援している。		
○チームでつくる利用者本位の介護計画					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	家族・本人からの希望を基に、職員・ケアマネージャー等で話し合いを行い、個別に具体的な介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	日々の生活の中で職員の気付きを記録に残し、それを基に3ヶ月に1度モニタリングを行い見直している。入居者の状況に変化のあった際には随時見直しも行って		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	現在のところ事業所の多機能性を生かした支援は行っていない。	○	今後ホームの持っている力を、本人・家族や地域の為にどのように生かしていけるか、職員がみんなでアイデアを出し合い、地域密着型サービスとして、どのように提供していけるかを検討いただきたい。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	基本的にホームの提供医により入居者の体調管理が行われているが、馴染みのかかりつけ医での受診を望む入居者は家族協力のもと受診を行って頂く事も可能である。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	開所以来ホームで最期を迎えたケースはなく、終末期の対応や方針については今後の検討課題である。	○	本人・家族と、今後の入居者のレベル低下を想定した話し合いを十分に重ね、希望に添えるような具体的な体制づくりが望まれる。(職員のスキルアップや往診可能な医師・看護師の確保等)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は入居者への声かけや介助をさりげなく行っており、配慮が伺えた。常に職員は入居者の言動を否定する事なく入居者の言葉に耳を傾ける様に意識している。個人情報は事務所の決まった場所にて保管されていた。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員は入居者の言葉や希望に出来るだけ耳を傾け、本人の意向に添って支援を行っている。急ぐことなく、ゆったりとした姿勢で出来るだけ手を出さず見守り、本人の力を引き出している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	月曜～土曜は外注の食材を食器に盛り付け対応している。準備や片付けには入居者も出来る範囲で参加していた。日曜には献立決めや買出し、調理盛り付けまで全て入居者と共に行っている。体調に応じて刻みや粥での対応も可能である。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴日は決まっているが、皆週に3回は入浴して頂ける体制になっている。また、拒否のある入居者には時間を変えて声かけを行う等なるべく気持ちよく入浴して頂けるよう配慮している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	ちぎり絵や農作業等、職員は入居者の得意な事や好きな事を把握しており日々の生活の中で生かす事ができる様に支援している。ホーム裏の広々とした畑ではさつまいも・冬瓜・トマト等が植えてあり、職員と入居者が共に手入れをしながら収穫の日を楽しみにしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気の良い日には毎日の様に散歩に出掛け、近所の方々と気軽に挨拶を交わしている。季節には、少し足を伸ばして長藤の花を見に出掛けたり、車でのドライブ・外食等外出の機会は多くあり、入居者の楽しみとなっている。		
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	夜間等職員の人数が少なくなる時間帯には万一の危険を考え施錠を行っているが、日中は見守りを職員全員が意識する事で施錠しない方針が貫かれている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	地域の自主防災組織に加盟し、協力を要請している。地域の防災訓練への参加もしていたが、定期的には行っていない。	○	運営推進会議において地域の人々へ災害時の協力を呼びかけると共に、継続的な防災訓練への参加等により万一の際にも落ち着いて対応ができる様な体制作りが望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量は1,400kcalを目安に提供しているが、水分摂取の目安の設定と摂取量の記録が行われていない。	○	高齢者にとって水分摂取は大変重要であり、摂取量の記録は健康状態を把握する大きな指針となる。毎日の記録を行う事で異常の早期発見と健康管理に役立てて頂きたい。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間はテーブルやソファが置いてあり、入居者は思い思いの場所で寛いでいた。清掃も行き届き清潔感のある空間となっていた。今後更に入居者に寛いで頂ける様にと、畳スペースを作る事も検討中である。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に馴染みの品を持ち込んで頂くよう説明を行っており、使い慣れた布団や家具等が持ち込まれていた。希望があればテレビ等の持ち込みも可能である。ベッドに置かれたぬいぐるみや壁に貼られた家族の写真は入居者の安心感に繋がっている。		